岩盤ボーリング柱状図

調査名　その他河川　赤石川　砂防激甚災害対策特別緊急事業に伴う業務委託

事業・工事名

調査目的及び調査対象　砂防　構造物基礎

ボーリング名	No.10	調査位置	広島県三原市木原町地内	北緯	34° 23′ 09.7670″
発注機関	広島県東部建設事務所 三原支所	調査期間	令和5年 1月19日～ 令和5年 1月24日	東経	133° 07′ 57.0943″
調査業者名		主任技師		現場代理人	
コア鑑定者		ボーリング責任者			
孔口標高	39.95m	角度	180°上 90 下 0°	方向	北 0° 270°西 90°東 180°南
地盤勾配	33° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種		試錐機	東邦地下工機D1-B48型
総削孔長	13.00m	エンジン	ヤンマーディゼルNFD-12	ポンプ	東邦地下工機BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名(模様)	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	記事
	39.65	0.30		表土	褐							
1				礫混り粘性土	赤褐							φ1～3cmの流紋岩礫が散在する(マトリックス支持) マトリックスは砂混り粘性土を主体とし、軟質である。
2	37.35	2.60										
3	36.55	3.40		玉石混り粘性土	黄灰							φ3cm前後の流紋岩礫を多く含み、所々φ75～100mmの玉石を含む。
4				礫混り粘性土	明黄灰							φ0.5～1cmの流紋岩礫が散在する(マトリックス支持) マトリックスは礫混り粘性土を主体とし、軟質である。
5												
6	33.05	6.90										
7	32.05	7.90		流紋岩	暗褐	w5	h3	E	IV	d	D	GL-6.90～7.90m付近、所々礫～棒状コアとなるが、全体的に、砂状コアを呈し軟質である。
8	31.35	8.60				w4	h2	D	IV		D	
9	30.95	9.00					h1	C		c	CL	GL-7.90～13.00m付近、全体的に変質している。
	30.25	9.70				w5	h3	D	IV	d	D	
10	29.95	10.00				w2	h1	C	III	b	CM	特にGL-9.00～9.70m付近はやや軟質となり、中位の硬さである。
	29.40	10.55				w4	h2		d		CL	
11	28.70	11.25			黄褐		h3	D			D	上記以外の区間も強変質部と弱変質部が互層となっている。
12	27.55	12.40			暗褐	w3	h2	C	IV	c	CL	
13	26.95	13.00				w4	h3	D			D	

孔内水位／測定月日

標準貫入試験

N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
34	1.15	34/300		
	1.45			
28	2.15	28/300		
	2.45			
50	3.15	50/300	300	
	3.45			
34	4.15	34/300		
	4.45			
44	5.15	44/300		
	5.45			
38	6.15	38/300		
	6.45			
20	7.15	20/300		
	7.45			
50以上	8.15	50/50	50	
	8.20			
30	9.15	30/300		
	9.45			
50以上	11.15	50/180	180	
	11.33			
50以上	13.15	50/250	250	
	13.40			

原位置試験　室内試験

削孔月日	削孔速度(cm/h)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧(MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	削孔水・送水量(L/min)	排水量(L/min)
1/19	600	86/ケーシング	HW/DB	1	40	0	W1 0	0
	60					0	W3 5	5
	60							
	60			0	160	0	W3 5	0
	60							
	60					0	W3 5	5
	60							
1/20	150			0	160	0	W3 5	5
	150			0	160			
	150			0	80			
1/21	150							
	150			0	160			
	150							
	150			0	80			
	150			1	160			
1/23	150		66	0	160			
	150		HW/DB					
	150			1	160			
1/24	150							